

クララザールじゅうろく音楽堂10周年特別企画シリーズ第2弾！

響き渡る弦の調べ、
心に寄り添う
ヴァイオリンのひととき

辻彩奈

ヴァイオリン リサイタル

ヴァイオリン：辻彩奈

ピアノ：エマニュエル・シュトロッセ

プログラム
PROGRAM

イザイ：悲劇的な詩 Op. 12
Eugène Ysaÿe : Elegiac poem Op.12

フランク：ヴァイオリン・ソナタ イ長調
César Franck : Sonata for Piano and Violin in A major

ルクー：ヴァイオリン・ソナタト長調
Guillaume Lekeu : Violin Sonata in G Major

2025年3月15日(土) 13:30開場 / 14:00開演

クララザール じゅうろく音楽堂

〒500-8302 岐阜市本郷町1丁目28番地

全席自由

4,000円

2024年12月中旬発売予定

購入
方法

1. 全国のセブンイレブン店舗のマルチコピー機「セブンチケット」から購入
2. WEB上の「セブンチケット」より購入(支払・発券はセブンイレブンで可能)

主催：公益財団法人 十六地域振興財団

企画協力：サラマンカホール

お問い合わせ先：十六地域振興財団 Tel. 080-4876-2241

THIS IS MECENAT
2024

AYANA
RETSUJI
VIOLIN
RECITAL



Clara Saal

クララザール

じゅうろく音楽堂

10周年

特別企画シリーズ

series
No. 02

2025年11月

「クララザールじゅうろく音楽堂」は
10周年を迎えます

© Makoto Kamiya

俊才の深化を示す意味深長な名曲リサイタル

辻彩奈の活躍と進化は目覚ましい。艶やかな音で奏される訴求力抜群の音楽は、様々な経験を経て語彙やスケール感をグングンと増している。中でも肝となっているのが隔年で行う紀尾井ホールでのリサイタル。ここで彼女は、2019年のバッハ無伴奏全曲をはじめとする意欲的な演目を披露し、深化を印象付けてきた。すなわちこれは辻の今を濃密に表す重要な公演なのだ。

今回のポイントはエマニュエル・シュトロッセとの共演。弦楽器奏者の信頼厚いこのフランスの名手は、温かく滋味深い音楽を紡ぎ出す。辻も19年と20年のラ・フォル・ジュルネ・ナントでの共演で手応えを得たが、21年の紀尾井ホール公演で予定された彼の出演はコロナ禍で叶わなかった。ゆえに今回は正真正銘“待望”の共演となる。

プログラムはフランス・ベルギー派に因んだベルギー作曲家の作品。哀愁が漂うイザイの「悲劇的な詩」に、超ポピュラーなフランクのソナタ、情熱と叙情味に溢れた名曲ルクーのソナタが続く。両ソナタはイザイのために書かれた作品で、しかもルクーはフランクの弟子という、意味深い内容だ。中でもフランクのソナタは、22年に辻がアルゲリッチと生気漲る快演を2度展開しているだけに、より進化した今シュトロッセと奏でる音楽に注目が集まる。

辻が、フランスで大家バスキエに学んだ成果も生きる演目を、エスプリ豊かな名手と組んでいかに聴かせるか？ そこには希有の俊才の新境地と更なる深化が待っている。

柴田克彦(音楽評論家)



© Makoto Kamiya

辻彩奈 Ayana TSUJI, Violin

1997年岐阜県生まれ。2016年モントリオール国際音楽コンクール第1位。モントリオール交響楽団、スイス・ロマン管弦楽団、トゥールーズ・キャピトル管弦楽団、山形交響楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団など国内外の主要オーケストラと共演している。2018年「第28回出光音楽賞」、2023年「第24回ホテルオークラ音楽賞」を受賞。小林健次、矢口十詩子、中澤きみ子、小栗ま絵、原田幸一郎、レジス・パスキエの各氏に師事。東京音楽大学卒業。2019年、ジョナサン・ノット指揮／スイス・ロマン管弦楽団とジュネーヴおよび日本にてツアーを実施し、その艶やかな音色と表現によって各方面から高い評価を得た。2020年、自らが権代敦彦に委嘱した「Post Festum」を世界初演。コロナ禍にあって国内公演の代役で幅広く活躍したことは、レパートリーを広く拡充すると共に、経験を深く積むことにつながった。NPO法人イエローエンジェルより貸与のJoannes Baptista Guadagnini 1748を使用。



© Jean-Baptiste Millot

エマニュエル・シュトロッセ Emmanuel Strosser, Piano

エマニュエル・シュトロッセは、出身地であるストラスブールで音楽を学び始めた後、パリ国立高等音楽院にてピアノをジャン＝クロード・ペヌティエに、室内楽をクリスチャン・イヴァルディに師事。レオン・フライシャー、ドミトリー・バシキーロフ、マリア・ジョアン・ピリスにも教えを受けている。フィレンツェ国際室内楽コンクールで入賞を果たし、1991年のクララ・ハスكيل国際ピアノ・コンクールのファイナリストに選出された。“ピアノを弾く詩人”と称されるシュトロッセは、クフモ音楽祭、ブラード音楽祭、ラ・ロック・ダンテロン、モナコの春の芸術祭、ラ・フォル・ジュルネ(ナント、ビルバオ、東京、リオ)など、ヨーロッパの主要な音楽祭に招かれている。また、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、ビカルディ管弦楽団、リール管弦楽団、モンペリエ国立管弦楽団、ローザンヌ室内管弦楽団などとも頻繁に共演している。